

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月20日現在

機関番号：23503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02157

研究課題名(和文) 中国古代の陰陽五行 占と科学の成立

研究課題名(英文) The Thoughts of Yin Yang Wu Xing from Ancient China - Divination and Scientific Formation -

研究代表者

名和 敏光 (NAWA, TOSHIMITSU)

山梨県立大学・国際政策学部・准教授

研究者番号：30291868

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：「陰陽五行」は中国を起源とし、朝鮮半島・日本に大きな影響を与えた思想であることは言を俟たない。これまで、新城・飯島・数内らによる科学史の方面や安居・中村らによる識緯思想の方面からのアプローチはあったが、遡及的・起源的な研究に関しては体系的な考察がなされてこなかったのが現実である。現在では、馬王堆漢墓帛書を始めとし、数多くの「陰陽五行」思想に関わる一次資料が発見されている。当該研究では、出土「陰陽五行」文献とその後世的展開を遡及的に考察し、これまで十分に果たされてこなかった諸理論の機能的役割の構造的把握を行うことを目的とし、中国占術理論の形成過程や思想的、社会的な影響を探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、出土「陰陽五行」文献とその後世的展開を遡及的に考察し、これまで十分に果たされてこなかった諸理論の機能的役割の構造的把握を行うことができ、充分になされてこなかった中国占術理論の形成過程や思想的、社会的な影響を探ることができた。特に、馬王堆漢墓帛書「陰陽五行」の帛片の綴合と新たな釈文の作成により、日書を含む中国中心の術数研究から東アジアの術数研究への展開が望めるようになり、今後の術数研究に寄与することが大きいと考える。また、日本の研究を海外で報告すると並行して、海外の研究者を招聘し交流ができたことは、本研究分野の発展が東アジアレベルで行うことの基盤が整ったと言える。

研究成果の概要(英文)：The thoughts of Yin yang wu xing was originated in China and had a major influence in Japan and Korean peninsula. There have already been studies of the thoughts from the viewpoint of the history of science by Shinjo, Iijima, and Yabuuchi, and from the viewpoint of divination theory by Yasui and Nakamura. However, the systematic studies from the historical and philological points of view were nearly absent. Nowadays, lots of first-hand documents on the theory of Yin yang wu xing have been unearthed, starting from Mawangdui Han tomb silk manuscripts. In this article, we will perform a historical study of unearthed documents about Yin yang wu xing and their later developments, aiming to understand the structural and functional aspects of those theories, and discuss the formation of Chinese divination theory, its ideological and social influences.

研究分野：中国哲学

キーワード：陰陽五行 国際研究者交流 中国 術数学 占 日書 出土資料 曆注

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19(共通)

## 1. 研究開始当初の背景

これまで日本では、新城新蔵や飯島忠夫が中国古代の暦術や天文学を研究対象とし天文暦数の方面からアプローチし、後に藪内清が中国暦法の科学的分析を行った。一方で、漢代以降に発展した予言的言説を含む讖緯思想に関し、安居香山が『緯書の基礎的研究』(中村璋八共著、漢魏文化研究会、1966。国書刊行会、1976)・『緯書の成立とその展開』(国書刊行会、1984)などで緯書(書物)の形成過程を論じ、術数文化における書物の重要性を示した。安居は中村璋八と共に各書に残る緯書の佚文を集めた『緯書集成』(漢魏文化研究室、1959-64)『重修緯書集成』(明德出版社、1971-92)を刊行し、日本・中国の研究において多大な影響を与えた。中村璋八は中国のみならず日本でも古くから利用されていた術数の基本書である『五行大義』の注釈書を出す一方、日本の陰陽道と中国の術数文化との関係を書物の観点から鋭く指摘し(『日本陰陽道書の研究』汲古書院、1985)後の陰陽道研究の道筋をつけた。

術数学に関する研究は継続的に蓄積されてきたが、東アジアの拡がりや多角的な視点からのアプローチが充分であったとは言い難い。近年、三浦国雄が史書に見える術数観のみならず、民間の呪術等を含む概念として術に視点を当て、新たな方向性を示そうとしている(『術の思想 医・長生・呪・交霊・風水』風響社、2013)。これとは別に、武田時昌(研究分担者・京都大学人文科学研究所教授)は「術数学研究班」を立ち上げ(京都大学人文科学研究所、2010)様々な分野の研究者が参加する議論の場を提供し、現在まで幾つもの国際シンポジウムの開催や海外研究者の招聘・講演を企画し、関連書物も出版しており、術数学研究の規模を押し広げている(『術数学の射程 東アジア世界の「知」の伝統』京大人文研、2014)『陰陽五行のサイエンス 思想編』京大人文研、2011・シンポジウム「東アジア世界の「知」の伝統：科学と思想、宗教のあいだ」於ソウル、2012等)。

これに対し、名和は武田の研究班に継続的に参加すると同時に、先に科研費を申請して「中国方術理論の遡及的考察」(平成25-27年基盤(C))を行い、これまでに後世の方術理論が戦国・秦漢期に遡れることを出土資料である馬王堆漢墓帛書「陰陽五行甲篇」・「陰陽五行乙篇」をもとに解明しているところである(「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》乙篇の構造と思想」等、研究業績欄を参照)。武田は「術数学の形成とその思想的基盤」(平成24-26年基盤(C))等を行い、術数学の形成を科学史の方面からアプローチしている(「五星会聚説の数理的考察(上)秦漢における天文暦術の一側面」・「刑徳遊行の占術理論」等、研究業績欄を参照)。末永高康(広島大学大学院文学研究科准教授)は「礼学形成史資料としての両載記の基礎的研究」(平成26-28年基盤(C))等を申請し、先秦・秦・漢時期の儒家思想における陰陽五行説の受容およびその理論的展開について思想的に考察している(『香港中文大学文物館蔵簡牘』干支表篇(『文帝十二年質日』)の復元)・「清華簡『筮法』の求爻法について」等、研究業績欄を参照)。宮本徹(放送大学教養学部准教授)は「出土文字資料による上古漢語諧声系統の研究」(平成13年度特別研究員奨励)を申請し、古代音韻学の方面から出土資料にアプローチしている(「漢字日本化的進行過程」・「上古漢語の\*r,\*lについて」等、研究業績欄を参照)。

## 2. 研究の目的

### 【研究期間内に明らかにしたこと】

#### (1) 一次資料(出土文献)に基づく戦国・秦漢期の陰陽五行思想の再構成

馬王堆漢墓帛書「陰陽五行甲篇」・「陰陽五行乙篇」・清華大学蔵戦国竹書「五行」文献などの一次資料に基づき、戦国・秦漢期の陰陽五行思想が如何なる様相を持つのかを明らかにし、それらが如何に展開してきたのかを再構成することを試みた。特に、馬王堆漢墓帛書「陰陽五行甲篇」・「陰陽五行乙篇」は破損が激しい帛書(シルクに書写された文書)であり、その残片が多く存していて復原が必要な文献であるため、最近出版された『長沙馬王堆漢墓簡帛集成(全七冊)』(湖南省博物館・復旦大学出土文献与古文字研究中心編纂、裘錫圭主編、中華書局、2014年6月)の写真図版に基づき全体を大幅に修正した。更に、帛片の順序に誤りがあるため、様々な角度から検討を行い、全体像の復原が必要であるので、それを完成させた。未発表資料であった清華大学蔵戦国竹書の「五行」に関する戦国期の文献については、残念ながら期間内に公刊されなかったため、今後の検討に譲らざるを得なかった。

#### (2) 「五行」文献の科学史的考察

「五行」文献は占術等とも関わり、天文・暦・陰陽五行・占術等の数理・科学知識の方面からのアプローチが必要なことは言を俟たない。例えば、馬王堆漢墓帛書「五星占」・「天文気象雑占」などは天文・暦数との関わりが非常に強いので、特に武田が中心となって考察・解明を行った。また、「兵陰陽」思想に関しても考察を行った。

#### (3) 「五行」文献の思想的考察

戦国・秦漢期に展開する「五行」思想を諸文献(『呂氏春秋』等)に基づき考察すると同時に、漢代に王充により纏められる『論衡』を中心に漢代的特徴を探る。同時に、馬王堆漢墓帛書との対比も行った。「五行」思想自体は、戦国期の郭店楚簡から漢代の馬王堆漢墓帛書まで、儒家・思孟学派の文献にも現れ、また清華大学蔵戦国竹書にもこれまで見られなかった「五行」の構成が新たに報告されているので、伝世文献との対比を行いつつ一次資料の思想的な位置付けを考察した。また、漢代以降、随・唐代の文献に現れる「五行」思想に関しても、敦煌文献や『五行大義』などに基づき思想的な展開を考察した。

#### (4) 「五行」文献の音韻学的・古文字学的考察

現在、多くの出土資料が報告される中、文字の通仮や書体の構造的な把握に数多くの論考が提出されている。特に、楚簡に関しては、特殊な文字構造と方言の問題から文献を読解する上でも、非常に苦慮している所である。「五行」思想を考える上で、音韻学的・古文字学的なアプローチは新たな手法として期待される所である。当該研究では、音韻学的・古文字学的なアプローチにより、より正確な読解と考察を期する所である。

【本研究の特色・独創的な点、予想される結果と意義】

(1)「陰陽五行」思想の新たな考察と把握。

これまで「陰陽五行」思想に対する遡及的・起源的な研究に関しては体系的な考察がなされてこなかったのが現実である。現在では、馬王堆漢墓帛書を始めとし、清華大学蔵戦国竹書に至るまで、数多くの「陰陽五行」思想に関わる一次資料が発見されている。当該研究では、出土「陰陽五行」文献とその後世的展開を遡及的に考察し、これまで十分に果たされてこなかった諸理論の機能的役割の構造的把握を行うことを目的とし、充分になされてこなかった中国占術理論の形成過程や思想的、社会的な影響を探ることを試みた。

(2)学際的アプローチ

「陰陽五行」思想は古代より近代に至るまで様々な形態で社会や文化に受容されてきている。思想として捉えられていることは自明であるが、占術・暦数・天文・科学・時令・音楽・音韻・食物・医学など多方面に及ぶ。当該研究では、文献学・科学史・思想史・音韻学の専門家で「陰陽五行」思想にアプローチすると同時に、国内外の「陰陽五行」に関わる専門家にも協力してもらい、研究を進めた（劉国忠清華大学教授・程少軒復旦大学研究員・北京大学陳侃理講師等）。

(3)一次資料の研究及び紹介

「陰陽五行」に関する一次資料は馬王堆漢墓帛書を始めとし、清華大学蔵戦国竹書に至るまで、これまで整理・翻訳が不充分であった。時に馬王堆漢墓帛書「陰陽五行甲篇」は昨年出版された『長沙馬王堆漢墓簡帛集成』でもその整理と綴合及び全体像の復原が充分でなかった。当該研究では、「陰陽五行甲篇」・「陰陽五行乙篇」の綴合及び全体像の復原を行い、新たな釈文を提供した。

### 3. 研究の方法

(1)研究期間は3年間とし、研究代表者の個人研究室に事務局を設置した。

(2)研究成果を日本の内外に示すために、ホームページを開設して情報を発信した。

(3)「陰陽五行」文献資料及び関連する後世文献に関わる資料・論文著作目録作成、東アジア方術関連資料のデジタル化を推進した。

(4)「陰陽五行」文献の研究会を定期的開催し、国内外の研究者と交流を推進した。

(5)毎年度末に「陰陽五行」資料及び方術資料の訳注を作成・出版した。

(6)場合によっては調査団を組織した上で、日本国内外に赴き、調査研究交流活動を行った。

(7)京都大学人文科学研究所研究班・「天地瑞祥志」研究会・中国出土資料学会等と連携し、共同研究・情報交換を行った。

(8)若手研究者を研究協力者として、その育成・支援を図った。

(9)研究協力者と連携しつつ国際学術ワークショップを開催し、成果を論文集として出版した。

### 4. 研究成果

(1)検討会の開催

研究打ち合わせ会を兼ねた「日書研究読書会」を京都大学人文科学研究所等において全23回開催・参加した。上海博楚簡研究会と連携し、「出土資料と漢字文化研究会」を全11回開催・参加した。天地瑞祥志研究会と連携し、研究討論会を全27回開催・参加した。

(2)国際学術交流の実施

2016年度、本務校の公立大学法人山梨県立大学教員特別研修派遣制度を利用し、京都大学大学院文学研究科において公立大学研修員として研修を行った。その間、北京大学歴史学系（5月）・復旦大学出土文献与古文字研究センター（9-10月）に訪問学者として滞在・研究・学術交流を行った。また、北京大学歴史学系（大学院）、清華大学歴史学系（大学院）、山東大学儒学高等学院（大学院）等において特別講義を依頼され実施した。2017年5月1日に、これまでの研究業績が評価され、山東大学儒学高等研究院国際漢学研究センター教授を委嘱された。2016年7月2日に、中国出土資料学会と連携し、平成28年度第1回大会を開催し、鄧佩玲助理教授（香港大学中文学院）を招聘した。2017年12月9日に、中国出土資料学会と連携し、東京大学において国際シンポジウム「新出土医学簡講演会」を開催し、柳長華教授（中国中医科学院中国医史文献研究所）他4名を招聘した。2018年3月17日に、上海博楚簡研究会と連携し、国際シンポジウム「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」を開催し、アメリカからマーティン・カーン教授（プリンストン大学）他1名を、中国から范常喜教授（中山大学）を招聘した。2018年9月8日に、国際シンポジウム「『天地瑞祥志』を中心とした前近代東アジア思想・文化の総合的研究」を開催し、フランスからハイエク＝マティアス准教授（パリ・ディドロ大学）を、中国から孫英剛教授（浙江大学歴史系）を招聘した。

(3)関連文献の電子テキスト化

中国古代占術を研究するために、関連文献の電子テキスト化を行った。対象として取り上げ

たのは、北京大学蔵西漢竹書、清華大学所蔵戦国竹簡、隨州周家寨 M8 漢簡、天水放馬灘秦簡、滄州周家台秦簡、銀雀山漢簡等である。

(4)研究成果の公開

中国古代占術の中で漢初の占術理論を記述した馬王堆帛書の中から、『陰陽五行甲篇』の全体像の復原を行い、16 篇の論文を中国語で執筆した。また、関連する論文 10 篇の論文を中国語・日本語で執筆した。

(5)国際学会での報告

出土資料・術数学に関する国際学会において 21 回の報告を中国語・日本語で行った。

(6)成果報告書としての論文集の刊行

研究成果を纏めた『東アジア思想・文化の基層構造 術数と『天地瑞祥志』』を汲古書院から出版した。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 26 件)

(1)名和敏光、京都大学人文科学研究所所蔵『天地瑞祥志』第二十(後半)翻刻・校注、名和敏光編『東アジア思想・文化の基層構造 術数と『天地瑞祥志』』(汲古書院)、査読無、2019、225-290

(2)名和敏光、『後法興院記』所収勅文の佚文資料研究、名和敏光編『東アジア思想・文化の基層構造 術数と『天地瑞祥志』』(汲古書院)、査読無、2019、105-128

(3)名和敏光、『抱朴子』所見呪語の遡及的考察、東方宗教(日本道教学会)、131、査読有、2018、1-20

(4)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釈 下、湖北出土簡帛日書国際学術研討会會議論文集(湖北省博物館)、査読有、2018、89-100、中国語

(5)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釈 上、出土文献与中国經学・古史研究国際学術研討会會議論文集(上)(華東師範大学)、査読有、2018、320-332、中国語

(6)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之六》《築(二)》《五行禁日》綴合校釈(修訂版)、世界漢字学会第六屆年會會議論文集(世界漢字学会)、査読有、2018、44-56、中国語

(7)名和敏光、“舉”与“舉”、楚文化与長江中游早期開發国際学術研討会會議論文集(下)(武漢大学)、査読有、2018、96-103、中国語

(8)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《徙》《天地》《女癸》《雜占之二》綴合校釈、先秦秦漢史公衆号 漢簡專号(武漢大学HP)、査読有、2018、中国語

(9)名和敏光、『断易天機』諸本簡介、第二屆東亞易学国際研討会會議論文集(中国周易学会)、査読有、2018、268-277、中国語

(10)名和敏光、日本蔵魏三体石經殘碑簡介、“国際尚書学会”第五屆学術研討会會議論文集(国際尚書学会)、査読有、2018、320-330、中国語

(11)名和敏光、北京大学漢簡 堪輿 と馬王堆帛書『陰陽五行』甲篇 堪輿 の対比研究、中国出土資料の多角的研究(汲古書院)、査読無、2018、323-347

(12)名和敏光、出土資料「堪輿」考、古代史研究 第八(研文出版)、創立七十周年記念論文集、査読無、2017、257-269

(13)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》乙篇綴合之一、“出土文献与伝世典籍的詮釈”国際学術研討会論文集(復旦大学)、査読有、2017、239-243、中国語

(14)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之六》《築(二)》《五行禁日》綴合校釈、中国簡牘国際学術研討会論文集(山東省博物館)、査読有、2017、101-112、中国語

(15)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《徙》《天地》《女癸》《雜占之二》綴合校釈、世界漢字学会第五屆年會論文集(三峡大学)、査読有、2017年、63-74、中国語

(16)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之七》綴合校釈、第三屆出土文献与上古漢語研究(簡帛專題)学術研討会論文集(中国社会科学院)、査読有、2017、122-129、中国語

(17)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《室》《築》綴合校釈、第 28 屆中国文字学国際学術研討会論文集(国立台湾大学)、査読有、2017、617-626、中国語

(18)名和敏光、版本鑑定辯正二則、第四屆東亞文献研究国際学術研討会論文集(揚州大学)、査読有、2017、1-8、中国語

(19)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《諸神吉凶》綴合校釈、紀念馬王堆漢墓發掘四十周年国際研討会論文集(湖南省博物館)、査読有、2016、206-210、中国語

(20)名和敏光、“諾舉”考、古文字与出土文献語言研究国際学術研討会論文集、査読有、2016、423-426、中国語

(21)名和敏光、『抱朴子』詞彙試釈一則、出土文献与諸子学学術研討会論文集、査読有、2016、159-168、中国語

(22)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《諸神吉凶》前半章綴合校釈、漢字研究、15、査読有、2016、33-55、中国語

(23)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇整体結構の復原、出土文献研究(中国文化遺產研究院、中西書局)、15、査読有、2016、共著、228-258、中国語

- (24)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《諸神吉凶》前半章綴合校釈、第四届世界漢字学会論文集（韓国釜山慶星大学）、Vol.2、査読有、2016、13-24、中国語
- (25)名和敏光、關於《陰陽五行甲篇》所見的“病”、出土医学文献研究國際研討會論文集（上海中医藥大学、査読有、2016、73-80、中国語
- (26)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《道》《雜占之四》綴合校釈、出土文献（清華大学、中西書局）8、査読有、2016、146-158、中国語
- \* 研究分担者の業績については各年度の実施状況報告書を参照のこと。

〔学会発表〕(計21件)

- (1)名和敏光、古記録所見の勘文と『天地瑞祥志』佚文、京都大学人文科学研究所東京ミーティング2019、大東文化大学大東文化会館、2019/3/10
- (2)名和敏光、「馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釈 下、湖北出土簡帛日書國際學術研討會、湖北省博物館、2018/11/10、中国語
- (3)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釈 上、出土文献与中国經学、古史研究國際學術研討會、於華東師範大学、2018/11/2、中国語
- (4)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之六》《築(二)》《五行禁日》綴合校釈（修訂版）世界漢字学会第六届年会、於 Konfuzius-Institut Nürnberg-Erlangen、2018/10/6、中国語
- (5)名和敏光、書道：秦漢の古文字を書いてみる（出土簡帛研究最前線）人文研アカデミー2018「技芸の伝統と学問：中国ユネスコ無形文化遺産」、京都大学人文科学研究所、2018/9/28
- (6)名和敏光、“舉”与“舉”、楚文化与長江中游早期開發國際學術研討會、武漢大学、2018/9/15、中国語
- (7)名和敏光、全体コメント、第一屆“出土文献与古代文明：新視野下的早期中国史”青年学者研討會、清華大学、2018/8/24、中国語
- (8)名和敏光、新出土医史籍をめぐる二、三の考察、日中医学史セミナー2018 in Kyoto 伝統医療文化の問題圈、京都大学人文科学研究所、2018/6/15
- (9)名和敏光、『断易天機』諸本簡介、第二屆東亞易学國際研討會、山東省山東大学、2018/5/27、中国語
- (10)名和敏光、日本蔵魏三体石經殘碑簡介、“國際尚書学会”第五屆學術研討會、甘肅省蘭州市西北師範大学、2018/4/28、中国語
- (11)名和敏光、『抱朴子』所見呪語の遡及的考察、日本道教学会第68回大会、国学院大学、2017/11/11
- (12)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》乙篇綴合之一、“出土文献与伝世典籍的註釈”國際學術研討會、復旦大学、2017/10/15、中国語
- (13)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之二》《築(二)》《五行禁日》綴合校釈、中国簡牘學術研討會、山東省博物館、2017/9/26、中国語
- (14)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《徙》《天地》《女癸》《雜占之二》綴合校釈、世界漢字学会第五届年会、三峡大学、2017/9/16、中国語
- (15)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之七》綴合校釈、第三屆出土文献与上古漢語研究（簡帛專題）高端學術論壇（中国社会科学院主辦）、北京、2017/8/15、中国語
- (16)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《室》《築》綴合校釈、第28届中国文字学國際學術研討會、国立台湾大学、2017/5/12、中国語
- (17)名和敏光、版本鑑定辯正二則、第四屆東亞文献研究國際學術研討會、揚州大学、2017/4/14
- (18)名和敏光、“諾舉”考、古文字与出土文献語言研究國際學術研討會、広州華南師範大学、2016/12/18、中国語
- (19)名和敏光、《抱朴子》詞彙試釈一則」出土文献与諸子学學術研討會、開封河南師範大学、2016/11/5、中国語
- (20)名和敏光、馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《諸神吉凶》前半章綴合校釈、第四届世界漢字学会、韓国釜山慶星大学、2016/6/26、中国語
- (21)名和敏光、關於《陰陽五行甲篇》所見的“病”、出土医学文献研究國際研討會、上海中医藥大学、2016/5/18、中国語
- \* 研究分担者の業績については各年度の実施状況報告書を参照のこと。

〔図書〕(計1件)

名和敏光編著、東アジア思想・文化の基層構造 術数と『天地瑞祥志』、汲古書院、2019、304

\* 研究分担者の業績については各年度の実施状況報告書を参照のこと。

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

(1)武田研究室 HP (データベース & 研究会日程等を公開)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/-takeda/>

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：武田 時昌

ローマ字氏名：(TAKEDA, tokimasa)

所属研究機関名・部局名・職名：京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：50179644

研究分担者氏名：末永 高康

ローマ字氏名：(SUENAGA, takayasu)

所属研究機関名・部局名・職名：広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：30305106

研究分担者氏名：宮本 徹

ローマ字氏名：(MIYAMOTO, toru)

所属研究機関名・部局名・職名：放送大学・教養学部・准教授

研究者番号：30345243

(2)研究協力者

研究協力者氏名：谷中 信一(YANAKA, shinichi)

所属研究機関など：日本女子大学・名誉教授

研究協力者氏名：池澤 優(IKEZAWA, masaru)

所属研究機関など：東京大学大学院・教授

研究協力者氏名：大西 克也(ONISHI, katsuya)

所属研究機関など：東京大学大学院・教授

研究協力者氏名：小寺 敦(KOTERA, atsushi)

所属研究機関など：東京大学・准教授

研究協力者氏名：小倉 聖(OGURA, sei)

所属研究機関など：早稲田大学・博士生

(3)海外研究協力者

研究協力者氏名：鄧 佩玲(DENG, pei ling)

所属研究機関など：香港大学中文学院・助理教授

研究協力者氏名：柳 長華(LIU, chang hua)

所属研究機関など：中国中医科学院中国医史文献研究所・教授

研究協力者氏名：顧 漫(GU, man)

所属研究機関など：中国中医科学院中国医史文献研究所・副研究員

研究協力者氏名：周 琦(ZHOU, qi)

所属研究機関など：中国中医科学院中国医史文献研究所・助理研究員

研究協力者氏名：劉 陽(LIU, yang)

所属研究機関など：中国中医科学院中国医史文献研究所・助理研究員

研究協力者氏名：謝 涛(XIE, tao)

所属研究機関など：成都文物考古研究所成都市文物考古工作隊・副研究員

研究協力者氏名：マーティン・カーン(Martin Kern)

所属研究機関など：米国・プリンストン大学・教授

研究協力者氏名：肖 芸暁(XIAO, yun xiao)

所属研究機関など：米国・プリンストン大学・博士生

研究協力者氏名：范 常喜(FAN, chang xi)

所属研究機関など：中国・中山大学・教授

研究協力者氏名：孫 英剛(SUN, ying gang)

所属研究機関など：浙江大学歴史系教授

研究協力者氏名：鄭 淳一(CHONG, SOON IL)

所属研究機関名など：高麗大学校師範大学歴史教育科助教授

研究協力者氏名：ファム レ フイ(Pham Lê Huy)

所属研究機関名など：ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学東洋学部・講師

研究協力者氏名：劉 国忠(LIU, guo zhong)

所属研究機関名など：清華大学・教授

研究協力者氏名：程 少軒(GHENG, shao xuan)

所属研究機関名など：復旦大学・研究員

研究協力者氏名：陳 侃理(CHEN, kan li)

所属研究機関名など：北京大学・講師

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。